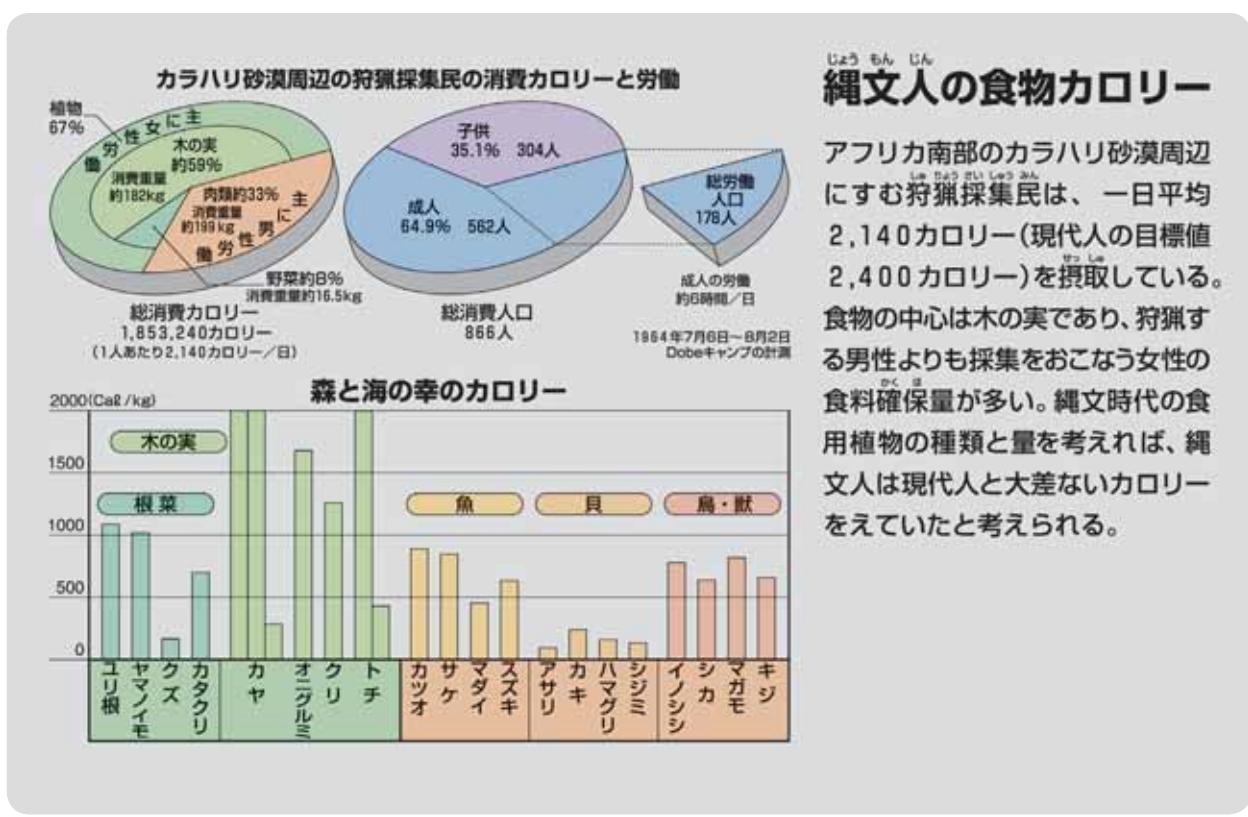


3. 縄文時代

1. 縄文人はどのようなものを食べていたの？

今から約100,000～20,000年前、地球の気温は今よりも低く、最も寒かった時の海面は約100mも下がっていたので日本列島は大陸と陸続きでした。しかし、氷河期が終わると、^{ひょう が き} 気候が暖かくなり自然環境が変わり始めました。^{かんせうじょう} 陸地をおおっていた雪や氷が溶け出し、海面が上昇し、これまで陸地だったところが海になり、現在の日本列島に近い地形になりました。気候の変化で動物や植物の種類も変わりました。東日本では、^{しんようじゅりん} 針葉樹林に替わり、ブナやナラなどの落葉広葉樹が広がりました。西日本ではシイ、カシなどの照葉樹林が広がりました。動物も大型のナウマンゾウやオオツノジカに替わって、イノシシやシカなど中、小型の動物が増えました。海ではハマグリやアサリなどの貝類が増え、山も海も豊かになりました。

日本列島に土器が出現したのは今から約12,000年前で、この頃から約2,500～2,400年前までの食料採集の時代が縄文時代です。ドングリ、トチ、クルミ、クリなどの木の実を主食に、シカ、イノシシなどの肉、サケ、マス、マグロ、カツオ、貝類など多くの種類の山の幸や海の幸を食べていました。



縄文人の食物カロリー

3. どうして縄文土器にはいろんな文様がつけられているの？

縄文時代を特徴づけるものの一つに縄文土器があります。縄文土器を見ると表面にはススが、内側には黒く焦げついたものがこっているものがあり、煮炊きに使っていたことがわかります。

ほとんどの縄文土器には、表面に文様がつけられています。この文様は何のためにつけられていないのでしょうか。みなさんも想像してみてください。次のような想像はどうでしょう。

- 文様をつけることで水が漏れにくくなるから
- 文様をつけることで表面積^{ひょうめんせき}が大きくなり熱効率^{ねつきゅうりつ}がよくなるから
- 文様をつけることで手にもったときすべりにくくなるから
- 文様をつけることで火にかけても割れにくくなるから
- 文様をつけることでヒビ割れが少なくなるから

まだ文様がつけられた理由ははっきりとわかっていないません。みなさんもいろんな仮説をたててみてはどうでしょう。文様がさまざまのは、その土器をつくった集団が自分たちの文様をもっていなかったかもしれません。また、祭りや呪術的な儀式^{じゅじゅつてき}のときには、その文様が必要だったとも考えられています。

草創期	早期	前期	中期	後期	晩期
12000 年前	10000 年前	6000 年前	5000 年前	4000 年前	3000 年前
					
	底がとがっている		いろいろな文様をつける		
					
	底が丸い	底が平ら		土器の種類が増える	

奈良県の縄文土器のうつりかわり

縄文土器の文様のつけ方

土器の文様は、撫ったひもなどを土器の表面に押しつけながら転がしたり、粘土を貼り付けたりしてつけていきます。ひもの太さや撫り方などによって、さまざまな文様ができます。また、木の棒^{ぼう}や貝がらで文様をつけたものもあります。なお、縄文土器はすべて文様がつけられているわけではありません。

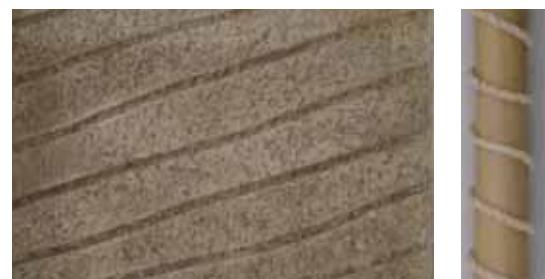
例えば、西日本の縄文土器の新しいものには文様がないものもあり、さらに、形も単純なものがたくさんあります。これに対して東日本の縄文土器は形も文様もかなり複雑です。つまり文様のあるなしだけでは縄文土器であるかどうかは判断できないということです。

さらに縄文土器をじっくり見ていくと次のことがわかります。

- いろいろな形の土器がある
- 粘土を積み上げて土器を作ったようすがわかる
- 縄文にもいろいろな種類がある
- 同じ道具でもいろいろな使い方をして文様をついている

これらのことから、土器の形や文様は、時期や地域によって特色があることがわかります。

さあ、みなさんも
縄文土器をじっくりと観察して、
おもしろい仮説を
たててみよう。



狩りをする

縄文時代になると、狩りに弓矢が使われるようになり、遺跡からは多くの矢じりが出土します。また、川や海の近くに暮らした縄文人にとって、魚も貴重な食物でした。魚を捕るため、角や骨で作った釣り針やヤス、石で作ったおもりや軽石製のうきが見つかっています。



石鎌 (矢じり)



左からヤス、ウキ、鉤



弓

調理する

ドングリの保管やあく抜きなど、縄文人には食生活の豊富な知恵がありました。実際の食物として、木の実をすりつぶして、クッキーやパン状にしたもののが見つかっています。



煮炊きに使われた土器



ドングリをすりつぶすための石臼と石杵



ドングリを保存する貯蔵穴



かご

飾る

耳飾りをはじめ、さまざまな装飾品がありました。土器や動物の牙、ヒスイなど材料もデザインもいろいろあります。なかには、漆や赤い色をぬったものもありました。



耳かざり



玉



鹿の角製の腰かざり



土製のうでわ

5. 奈良県に古い縄文時代の遺跡はあるの？

奈良県に限らず近畿地方は縄文時代の古い時期（草創期や早期）の資料に恵まれているとは言えません。そのなかで奈良県北東部の山添村の大川遺跡は、奈良県における縄文時代早期の代表的な遺跡です。大川遺跡は名張川の河岸段丘の上にあり、縄文早期の住居跡3基が検出されています。出土している土器には早期の尖底土器があります。この遺跡以外にも、同じ山添村に桐山和田遺跡や北野ウチカタビロ遺跡などの縄文時代草創期にまで遡る遺跡も確認されています。



大川遺跡の遠景（中央の平坦な場所）



大川遺跡の竪穴住居跡



桐山和田遺跡から出土した奈良県で最も古い土器の例



北野ウチカタビロ遺跡から出土した石器



大川遺跡から出土した底のとがった早期の土器

6. 檜原遺跡はどんな遺跡なの？

櫛原市の畠傍山の南東の麓に広がる櫛原遺跡は、縄文時代晩期に最も栄えた遺跡の一つです。発掘調査は1938年に実施されましたが、遺跡があった場所は、現在、県立櫛原公苑の野球場や陸上競技場などに整備されています。

櫛原遺跡からは土器や、矢じり、石くわなど日常使われたとみられる石器が多く出土しています。また、食料として狩猟採集した動植物の遺体が多く出土しているのも、水分が多くて木や骨が残りやすい低湿地遺跡である櫛原遺跡の大きな特徴です。

土器には東北地方をはじめ東海、中部、北陸地方の土器の特徴をもったものがあります。また、フグやクジラといった海の生物の骨や、北陸でしか手に入らないヒスイのアクセサリーも見つかっています。このことから、遠くの地域との盛んに交流をおこなった、中心的な集落だったとみられます。その他に、土偶や石刀など、まつりやいのりにかかわる遺物が多量に出土しているのも大きな特徴の一つです。

このような内容をもつ櫛原遺跡出土遺物のうちの1,225点が、2002年に国の重要文化財に指定されました。このことは櫛原遺跡が近畿地方だけでなく西日本の縄文晩期文化を代表する遺跡であることを示しています。



櫛原遺跡遠景



櫛原遺跡出土土偶



イノシシの牙



フグの骨